

第二学年 国語科学習指導案

日時 平成三十年七月十日 (火) 第五時限
場所 二年生教室

学級 二年生(男子十名 女子四名)

授業者 武市 諒太郎

一 単元名 「魅力的な提案をしよう」プレゼンテーションをする

教材名 私たちの村の職場を紹介しよう(二年生の『働く場所開拓』)

二(1)本単元における指導内容及び具体的な指導事項

本単元の指導事項 中学校学習指導要領解説「話すこと・聞くこと」(中)第二学年 より(平成二十年九月)

- ア 社会生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を多様な方法で集め整理すること。
- イ 異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的部分と付加的部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話すこと。
- ウ 目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すこと。

本単元の指導事項 中学校学習指導要領解説「話すこと・聞くこと」(中)第二学年 より(平成二十九年告示)

- ア 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考え方を想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。
- イ 自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫すること。
- ウ 資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。

(2)単元及び教材について

昨年度の中国研全国大会に向けた実践を通して、多くの成果を得ることができた。特に、可茂地区では「話すこと・聞くこと」領域において地域の特色や行事を活用して言語活動のテーマの開発をすることができたとと言える。また、付けたい力を身に付けさせるための言語活動の設定は当然のこととして、テーマ設定の重要性を改めて認識することにもつながる貴重な機会となった。本校の研究主題は『自分の考えを豊かに表出し、仲間と深め合う生徒の育成』である。言語活動を生徒にとって必然性のあるものにし、生徒自身が学習の意義を理解した上で、学習を主体的に進められるようにすることが重要である。各単位時間の指導事項を明らかにすることで、生徒にどのような姿が見られたら付けたい力が身に付いたと言えるのかを具体化していき、定着状況を見届けていきたい。

本教材の言語活動であるプレゼンテーションとは、相手の理解や同意を得るために、自分の考えや調査したことなどを提示して、提案・説明するものである。ここでは、聞き手が知りたいことを想定するとともに、資料や機器を効果的に活用することが大切である。プレゼンテーションは、パブリックな場面で話すことに加えて、相手意識をしっかりともち、相手納得させたり説得したりすることによって成否が決まる。したがって、活動をする際は筋道立てた構成を考えるだけでなく、聞き手の視覚に訴えたり説得力を持たせたりする工夫にまで考えを及ぼしたい。そこで、本時ではタブレット端末のアプリケーションを活用した提案を行う。タブレット端末を使うメリットを十分に生かした提案にすることで、本単元で生徒に最も付けたい力である指導事項ウだけでなく、指導事項イの力も身に付けさせる有効な手立てとしたい。

この教材では提案するテーマを「私たちの村の職場を紹介しよう(二年生の『働く場所開拓』)とした。昨年度まで十月に実施されていた職場体験学習が、今年度から七月上旬に移行され、生徒は四月当初から働く意義や職業の種類について総合学習で学んできた。ゆえに、東白川村の職業の特色や職場の数などを把握した上で、もっと多くの人に東白川村にある職場で働いてほしいという願いを抱いている。総合学習と関わらせながら本単元の流れを作ること、地域との結びつきを強く感じることができ、生徒の意欲につながる。そして、自らが調べたり体験したりした職場を仲間だけでなく村外に住む先生方(他校の先生)に提案するという課題意識をもたせることで、目的や必然性を感じる学習の場を創造することができると考えた。さらに、レディネステストや意識調査に基づいた、少人数だからこそできる一人一人の丁寧な実態分析に応じた学習過程を仕組むことで付けたい力を確実に定着させることをねらう。

三 生徒の実態(意識調査、スピーチタイム、「話すこと・聞くこと」音声テストより)

第二学年の生徒は男子十名、女子四名の全十四名の学級である。生徒の実態をより細かく分析するために生徒の意識調査を六月当初に実施した。生徒の「話すこと・聞くこと」に対する意識調査を通して、今までの学びの中で話す力や聞く力が付いたと実感している生徒が学級全体の約七割近くを占めていることがわかった。これは、一年生時から継続した学習指導による成果であり、スピーチやビブリオバトル、少年の主張交流などの学習を通して得た自らの学びの深まりを実感している結果であるといえる。また、人前で話すことに抵抗感を抱いている生徒が少ないことも集計結果によって明らかになった。つまり、第二学年の生徒は概ね「話すこと・聞くこと」領域の学習活動に対する苦手意識を抱いていないと言える。その一方で、すべての質問項目で最低評価である「全くそう思わない」をつけた生徒が一人いたことも事実である。他にも、質問調査の記述欄に目を向けると話す際の自身の課題として「もっと工夫した発表がしたい」、「話す内容に説得力がない」、「内容を整理してから話すようにしたい」といった記述があった。(別紙参照) これらの結果から、第二学年の指導事項イである「自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫する」力が必要だと考えた。テーマに沿って、相手や目的に応じて必要なことを考えて材料を集め、構成や展開を考えて上で機器などを有効に活用した魅力的な提案をする力を身に付けさせたい。

研究内容(2)に関わって、個々の「話すこと」の力を把握するために前単元の導入の時間にスピーチ(プレゼンテーション)タイムを位置づけ、観点を基にペアで相互評価をした。(別紙参照)また、その際に聞き手がタブレット端末でビデオを撮り、自らのスピーチ(プレゼンテーション)を見直して自己評価できるように工夫した。この数値を参考にして各単位時間の個に対する手立てを考える。

さらに、「話すこと」だけでなく「聞くこと」に関して、どのような部分に弱さが見られるのかを把握するために音声テストを実施した。(別紙参照)以下はその分析の結果とそれに対する具体的な手立てである。

◎生徒管理委員長の大倉さんの話から必要な情報を聞き取る問題である。

※放送は1回しか流さず、質問は放送後に提示した。生徒はメモを取りながら放送を聞いた。

○質問①～③：各学年の投票時間と場所を答えなさい。

【基本的な情報を聞き取ることができるかどうかを見る問題】

(第1学年 話すこと・聞くこと イ)

○質問④(1), (2)：投票が無効になる場合はどのようなときか。4つ中2つ答えなさい。

【共通点や相違点を整理し、話の全体と部分、事実と意見との関係などに注意しながら聞き取ることができるかどうかを見る問題】

(第1学年 話すこと・聞くこと イ)

○質問⑤, ⑥:いつ開票されるのか、結果はいつどこに掲示されるのかを答えなさい。

【話の中心的な部分だけでなく、付加的な部分にも注目して聞き分けることができるかどうかを見る問題】

(第2学年 話すこと・聞くこと イ)

学級の正答率分析 (全14人)

※個の分析表は別紙参照

質問	①	②	③	④(1)	④(2)	⑤	⑥
誤答数	2人	0人	4人	5人	4人	5人	6人
無回答数	0人	0人	0人	1人	1人	0人	2人
割合	14%	0%	28.5%	35%	28.5%	35%	42.8%
平均誤答率	14.1%			31.75%		38.9%	

基本的な情報を聞き取る問題は、概ねの生徒が正答している。それに対して、話の中心的な部分だけでなく、付加的な部分にも注目して聞き分けることができるかどうかを見る問題においては、全体の約4割程度に誤答が見られた。意識調査でも弱さが見られた部分である。本時は、聞き手の同意や理解得られるよう、伝えたいことを整理する力が求められる。仲間のプレゼンテーションを聞く際に内容と表現の仕方に注目し、評価の観点を明確にして聞くことで自分の考えを深めたり、表現に生かしたりできることを理解させたい。また、聞き手の役割の一つにタブレット端末でビデオ撮影をすることを取り入れる。そうすることで、実際に提案した話し手も自らの発表を見ることができ、相手や目的に応じて必要なことを考えてプレゼンテーションができていたか振り返る手立てとしたい。

「個の実態分析を受けた抽出生徒…四名」

生徒 6 N・R

意識調査の自己分析においては自身の一年生からの成長を実感できているが、相手意識をもって話したり聞いたりする力が弱いことがレディネステストから明らかになった。**【別紙参照】**また、意識調査の記述で「音読がすらすら読めない」と自ら述べているように、文字認識に苦手意識を抱いている。そこで、タブレット端末を用いたプレゼンテーション資料を作成することによって視覚的情報を増やし、聞き手にとってわかりやすい発表ができるようにする。

生徒 7 Y・G

「話すこと・聞くこと」に関して強く苦手意識を感じているわけではないが、意識調査では「話すときに噛んでしまつてうまく話せない」という自身の課題を記述していた。**【別紙参照】**また、スピーチ（プレゼンテーション）タイムの評価では「話す構成を考えながら話し、説得力のあるスピーチになっているか」の項目に対する評価が自他ともに低かった。そこで、原稿を書き、それをそのまま読む習慣から脱却できるように、プレゼンテーションをする際に発表メモを活用しながら内容を整理したり表現方法の工夫をしたりすることで目的や場面に応じて話を構成する力を付けたい。また、「聞くこと」では質問④、⑥が無回答であった。第一学年と第二学年における「聞くこと」の基礎的な力が付いてないと思われる。評価の観点を明確にして、観点を絞って話し手の提案を聞いたり自らプレゼンテーションをしたりすることができるよう支援する。

生徒 13 I・H

意識調査では、すべての項目で1（全くそう思わない）を選択していて、「話すこと・聞くこと」の力が付いているという実感がもてていない。**【別紙参照】**実際に普段の授業の中でも、発表をしたり仲間と交流したりする際に、発表することを躊躇する場面があり、一度自分の頭でじっくり整理してからでないと思え答えができない。「話すこと」については、プレゼンテーションの元となる発表メモを書く段階で、何をどのような順番で話すのかを明確にさせたい。「聞くこと」では、話の中心的部分だけでなく、付加的部分にも注目して聞き分けることができるようタブレット端末で撮影したビデオを活用して提案の内容について丁寧に確認する。

生徒 14 D・N

意識調査では、質問項目に①、②の項目に4（そう思う）を選択している。**【別紙参照】**自分自身に「話すこと・聞くこと」の力が付いていることを実感している一方で、仲間の前で話すことへの抵抗感少なからず抱いていることが普段の授業の姿からわかる。自分の発表する内容に自信がないためか、自らの考えを言う際に声量が小さく、仲間が聞き取ることができないことが少なからずある。それがスピーチ（プレゼンテーション）タイムでの評価でも明らかになっている。各単位時間の導入において、評価の観点や相手・目的意識を全体の場で確認し、その授業では何を重点とすべきなのかを生徒自身が把握できるようにする。

四 単元指導計画（全五時間）

（1）言語活動の特徴と付けたい力との関連

本教材は全六時間である。この教材の単位時間の役割として、「学習の見通しをもち、テーマ設定をする」時間を一時間。「集めた資料からプレゼンテーション資料を構成する時間」を二時間。この三時間を踏まえて、本時に向けて「モデルとなる発表（教師の見本）を見て、構成を練り直す時間」を一時間。「仲間や村外に住む先生方に職場を紹介する時間」を一時間。「それぞれの提案を評価し合い、振り返る時間」を一時間位置付けている。本時は、第五時「仲間や村外に住む先生方に職場を紹介する時間」である。相手や目的に応じて東白川村の職場を紹介するプレゼンテーションする活動を通して、印象に残る提案をするためには、多様な方法で集めた材料を整理して機器などを有効活用することが大切であることに気付き、聞き手にとって魅力的な提案をすることができるようになる。

（2）単元のねらい

○グループのメンバーと協力しながら、わかりやすく魅力的な提案の仕方を工夫しようとする態度を育てる。**【関心・意欲・態度】**

○聞き手の知りたいことを想定して集めた情報を整理し、論理的でわかりやすい構成を考えることができる。**【話すこと・聞くことア イ】**

○資料や機器を活用し、写真や図表などを効果的に組み合わせることで説明することができる。**【話すこと・聞くことウ】**

○相手や目的に応じて話の展開や形態に違いがあることを理解することができる。**【伝国イ(オ)】**

③【単元の評価規準と単元指導計画】

- 話し合いの場で、提案内容や説明の仕方について自分の考えを話したり、他の考えを評価したりしようとしている。 【国語への関心・意欲・態度】
- 聞き手の関心や知りたいことなどを予想して、内容を整理したり考えたりしている。 【話すこと・聞くことア イ】
- わかりやすく魅力的な提案になるように、資料やタブレット端末の使い方を考えて話している。 【話すこと・聞くことウ】
- 相手や目的に応じた話の展開や、聞き手に配慮した形態を選んで話している。 【伝国イ(オ)】

時	ねらい(○学習課題)	評価規準・(評価方法)
1	<p>仲間や村外に住む先生方に向けて、「村の職場」について紹介することで東白川村の活性化につながるように「私たちの村の職場を紹介しよう」と二年生の『働く場所開拓』という単元の目的や学習内容を理解し、どのようなテーマで提案をしたらよいかを考えることができる。</p> <p>◎様々な立場の人に、村の職場の魅力が伝わるようなプレゼンテーションの内容を考えよう。</p>	<p>「私たちの村の職場を紹介しよう」と二年生の『働く場所開拓』という単元の目的や学習内容を理解し、どのような話題でスピーチをしたらよいかを考えている。</p> <p>《ノート・学習プリント》</p> <p>〈話すこと・聞くこと ア〉</p>
2	<p>テーマに応じて発表メモを作成するために、タブレット端末を使ったり効果的な語句を使ったりして自分の伝えたい内容を書き出すことができる。</p> <p>◎自分の伝えたい内容をまとめるには、どのような発表メモを作ればよいのだろう。</p>	<p>テーマに沿って発表メモを作成するために、タブレット端末を活用したり効果的な語句を使ったりして自分の伝えたい内容を書き出している。</p> <p>《授業プリント》</p> <p>〈話すこと・聞くこと ア〉</p>
3	<p>先生のモデルプレゼンテーションを参考にして、資料を活用し、相手の関心や知りたいことを想定しながら、説明を補足したり分かりやすい言葉を使ったりして提案内容を整理することができる。</p> <p>◎「自分が選んだ職場の魅力」が伝わるようなプレゼンテーションをするためにはどのような話し方をすればよいのだろう。</p>	<p>先生のモデルを参考にして資料を活用し、聞き手の関心や知りたいことを想定しながら、説明を補足したり分かりやすい言葉を使ったりして練習している。</p> <p>《観察・授業プリント》</p> <p>〈話すこと・聞くこと イ〉</p>
4	<p>自身の職場体験を振り返り、プレゼンテーションする学習活動を通して、魅力が伝わる話をするためには構成や展開を考えて話したり、話し方を工夫したりすることが大切であることに気付き、相手意識をもって話すことができる。</p> <p>◎仲間や先生方に「職場の魅力」を伝えるために、内容や表現のしかたを工夫して話そう。</p>	<p>職場の魅力が伝わる話をするためには、構成や展開を考えて話したり、語句や文を効果的に使いながら資料を活用したり、話し方を工夫したりすることが大切であることに気付き、相手意識をもって提案内容を構成している。</p> <p>《観察・授業プリント》</p> <p>〈話すこと・聞くこと イ〉</p>
5 (本時)	<p>相手や目的に応じて東白川村の職場を紹介するプレゼンテーションを通して、印象に残る提案をするためには、多様な方法で集めた材料を整理して機器などを有効活用することが大切であることに気付き、聞き手にとって魅力的な提案をすることができるようになる。</p> <p>◎仲間や村外の方々に職場の魅力を伝えるために、聞き手の印象に残る提案をしよう。</p>	<p>聞き手の印象に残る提案をするためには、多様な方法で集めた材料を整理して機器などを有効活用することが大切であることに気付き、魅力的な提案をしている。</p> <p>《観察・授業プリント》</p> <p>〈話すこと・聞くこと ウ〉</p>
6	<p>評価シートを基に前時を振り返る活動を通して、相手や目的に応じて提案内容を整理し、機器などを有効活用して発表することが大切であることに気付き、どのグループの提案がもっともわかりやすく説得力があったか話し合うことができる。</p> <p>◎ビデオを見直し、どのグループ発表が最も魅力的な提案だったかを話し合おう。</p>	<p>相手や目的に応じて提案内容を整理し、機器などを有効活用して発表することが大切であることに気付き、どのグループの提案がもっともわかりやすく説得力があったか話し合えている。</p> <p>《観察・授業プリント》</p> <p>〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ〉</p>

五 本時のねらい
 ○相手や目的に応じて東白川村の職場を紹介するプレゼンテーションを通して、印象に残る提案をするためには、多様な方法で集めた材料を整理して機器などを有効活用することが大切であることに気付き、聞き手にとって魅力的な提案をすることができるようにする。

六 本時の展開 (5/6時)

学習活動

指導・援助 (三つの見届け)

導入

◇前時の学習を振り返り、場面設定について確認し、本時の見通しをもつ。(五分)

・私達は先週、職場体験に行ってきた。それを生かして本時は仲間だけでなく、村外に住んでみえる先生方に対して東白川村の職場の魅力を伝えるためにタブレット端末を活用しながらプレゼンテーションをする。

◇「村の職場の魅力」を伝えるためにはどのような工夫(表現方法・構成)が必要かを考えてプレゼンテーションをすることを理解し、課題を確認する。

仲間や村外の方々に職場の魅力を伝えるために、聞き手の印象に残る提案をしよう。

展開

◇割り当てられたグループ同士で発表練習(リハーサル)をし合い、聞き手の評価をもとに前時書いた構成メモに付け加えたり、内容を直したりしている。(十八分)

・三分の制限時間の中で魅力的な提案になっているか評価し合う。

・評価の観点に基づいてアドバイスができるようにする。
 ◇全体交流(プレゼンテーション)をする。(二十分)

〈料理・接客グループの提案内容例〉

皆さんは、この村にカレーバイキングを楽しむ場所があることを知っていますか。そうです。C.O.C. 沓番屋にも勝るとも劣らない料理屋、レストラン味彩です。僕は実際に二日間、職場体験をしてきました。味彩では皆さんが知らないこだわりが多くありました。この画像を見てください。

〔中略 (ここに具体的なエピソードを入れる)〕

他にも、東白川には食を楽しむ場所がたくさんあります。その中でも、東白川村の特産物を味わうことができる場所が茶の里東白川です。実際に売られている商品がこちらです。

〔中略 (ここに具体的なエピソードを入れる)〕

ぜひ、一度訪れてみてください。そしてよろしければ村外で宣伝していただき、村ではたくさん人を増やしてほしいと思います。ご清聴ありがとうございます。

終末

◇本時を振り返り、自己評価をする。(七分)

・自分の実体験と関わらせながら、伝えたいことを整理して話すと聞き手にとってわかりやすい発表になることがわかった。十月の職場体験報告会では、今回の成果と課題を生かしてよりよいプレゼンテーションができるようにしたい。

○実態を見届ける

・内容について話を整理して書いていた生徒、構成の工夫をして相手意識をもつことができていた生徒を意図的に指名し、本時のねらいを明確にする。
 ・前時の振り返りをもとに村職場の魅力を伝えるためにはどのようなプレゼンテーションにすればよいのかを観点別に確認する。

○学習状況を見届ける

・三分ぐらいを目安としたプレゼンテーションの内容を考え、大きく三つに分けて構成や展開を考えるようにする。

☆発表メモをもとに本時の評価の観点を意識して話したり聞いたりしているかを見届けるために、グループ練習の時間を十分確保する。

(抽出生徒 D・N)

☆どのような構成(内容)・話し方の工夫をしているかをグループで交流する際に確認し合うことができるようにする。

(抽出生徒 I・H)

☆提案内容を上手く話すことができない生徒(グループ)に対して、タブレット端末や効果的な語句を活用しながら発表ができるようにする。

(抽出生徒 N・R)

○定着状況を見届ける

☆全体交流においてビデオを撮ることで自身のプレゼンテーションについて自己評価し、振り返る。また、的確なアドバイスができるように評価の観点を明示し、それをもとに相互評価を行えるようにする。

(抽出生徒 Y・G)

【評価規準】

聞き手の印象に残る提案をするためには、多様な方法で集めた材料を整理して機器などを有効活用することが大切であることに気付き、魅力的な提案をしている。

《観察・授業プリント》
 〈話すこと・聞くこと ウ〉